

## 2019年世界子どもレポート 概要

### 『子どもたちの人生に変化をもたらすために (Changing Lives in Our Lifetime)』

今日生まれた子どもたちは、これまでの歴史上のどの時代と比較しても、健康で、教育を受けられ、そして守られて成長するチャンスが高く、自分の可能性を最大限に発揮する機会に恵まれています。わずか一世代前には、子どもが5歳になる前に命を落とす可能性は今の二倍もあり、そして児童労働に関与する可能性は70%高く、殺害される可能性も20%高かったのです。

創設100周年を記念して、セーブ・ザ・チルドレンは、第3回となる年次世界子どもレポート子どもたちの状況が改善していることを発表します。本来であればすべての子どもたちが享受すべき「子ども時代」がなぜ早く終わってしまうのか、その主要な理由を調査したところ、病気、栄養不良、教育を受けられないこと、児童労働、児童婚、早期妊娠、そして死に至る暴力に苦しむ子どもたちが、大幅に減少していることがわかりました。2000年には、推定で9億7,000万人の子どもたちが、こうした原因で子ども時代を奪われていました。しかし今日では、その数は6億9,000万人に減少しています。つまり、少なくとも2億8,000万人の子どもたちの生活が、20年前よりも良くなっているということです。

「子ども時代が守られている国ランキング (End of Childhood Index)」におけるスコアを比較すると、2000年以降、176ヶ国中173ヶ国で子どもたちの全般的な状況が改善していることがわかります。これは歓迎すべきニュースで、投資と政策によって多くの子どもたちの生活が改善されたということを示しています。世界で最も貧しい国々のいくつかにおいて、子どもたちにとって非常に大きな進捗がもたらされており、最大のニーズを抱える国々における発展の努力が、ますます大きく実を結んでいることの証明にもなっています。

ランキングを掘り下げて一つひとつの指標を見てみると、各国が目覚ましい進捗を遂げており、5歳未満の死亡率の削減を通じて子どもの権利を実現していることがわかります。各国はまた、就学率の向上および、栄養不良、児童労働および児童婚の削減においても、大きな成果を上げました。こうした進捗により、数百人の子どもたちが、子ども時代を奪われずにすむようになったのです。一方で、思春期の出産や子どもの殺害はあまり減少しておらず、また、暴力や紛争地域で暮らす子どもたちの数は全く減っていません。実際に

#### 何億人もの子どもたちが 救われてきました

2000年以降の進捗により、世界中で何百万人もの子どもたちが救われてきました。

現在では：

- 5歳未満で死亡する子どもは年間440万人減少
- 発育障害の子どもは4,900万人減少
- 学校に通えていない子どもは1億1,500万人減少
- 児童労働に従事する子どもは9,400万人減少
- 結婚する少女は1,100万人減少
- 10代で出産する子どもは年間300万人減少
- 殺害される子どもは年間12,000人減少

は、紛争の影響を受ける地域に住んでいるか、紛争のために避難を余儀なくされる子どもたちの数は、2000年以來急増しています。

今日、4人に1人の子どもが「子ども時代」つまり、安全に成長し、学び、遊ぶことができる人生の一時期を過ごす権利を奪われています。奪われた子ども時代は、ますます世界の紛争地域に集中するようになっています。上述したように、私たちが調査した8つの指標のうち、紛争による避難が唯一増加していました。現状、強制的に避難を余儀なくされた人々は、2000年よりも3,050万人増加しています。これは80%もの増加となります。すべての子どもたちが、彼らにふさわしい子ども時代を過ごせるようになるためには、紛争地域において子どもたちの健康、教育、保護の権利を実現する方法を見つけることが重要となるのです。

### 何が進捗をもたらしたのか？

1990年代、セーブ・ザ・チルドレンは、“ポジティブ・ディビアンズ”として知られるようになった、変革を生み出すための、これまでと全く異なるアプローチを生み出しました。このアプローチは、どのコミュニティにおいても、周りと同じ資源や制約のなかで、異なる方法で物事を進め、標準よりも優れた結果を得られる人がいる、という考えに基づいています。彼らの子どもたちは、置かれた状況から考えられる以上に、健康で、よく学び、守られています。これらの成功事例から学ぶことが、子どもたちやコミュニティの福祉を向上させ、組織の有効性を高める強力なツールであることがわかったのです。100周年の機会に、私たちはこの革新的なアイデアに再び着目し、ポジティブ・ディビアンズのアプローチを使って、子どもたちにとって平均以上の進捗を遂げている国を明らかにしました。これらの国々で成功した戦略に注目し、そこから得たインスピレーションを、他国・他地域における私たちの活動に生かすことができます。

世界で最も貧しい国々でさえ、驚くべき進捗を遂げており、その事例は数多くあります。つまり、正しい段階を踏めば、「開発はうまくいく」ということです。この報告書は、子どもに配慮した開発に、より多くの投資を行うべきだということを証拠に基づいて強く訴えています。

この報告書に掲載された成功事例は、世界中の子どもたちを支援するために進められている戦略のいくつかを説明したものです。そうした戦略には、法的枠組みの強化、医療制度の改善、教育への投資、世帯収入の向上に加え、10代に若者たちをエンパワーし、自分たちの可能性を最大限に引き出せるような人生の選択を可能にすること等が含まれます。

子どもへの投資は、倫理的に対応に迫られています。世界には資金、ノウハウ、技術が十分あるにも関わらず、現状のような形で子どもたちの権利がはく奪されている状況が続くことは許されないことです。

## 成功事例

この報告書では、ここ数十年の間に、子どもの福祉を大きく改善した国々の事例研究を報告しています。例えば：

**バングラデシュ**では、保健に対して持続的に投資を行った結果、5歳未満の死亡率が著しく減少しました。

**エチオピア**では、子どもの栄養改善に向けて一連の介入を行い、発育阻害の蔓延を劇的に減少させました。

**メキシコ**では、教育と貧困削減に資金を投入した結果、児童労働に従事する子どもの割合が大幅に減少しました。

**フィリピン**では、学校に通うようにインセンティブを設けたり、柔軟な選択肢を設定したりすることで、就学児童数の大幅な増加を達成することができました。

**インド**では、法改正や女子の教育とエンパワーメントのためのプログラム、および国民の意識向上キャンペーンを行った結果、児童婚が大幅に減少しました。

**アフガニスタン**では、ドナーの援助を得て女子教育に力を入れ、保健サービスを改善した結果、思春期の出産率が大幅に減少しました。

**コロンビア**では、安全への公共投資やリスクのある若者のためのプログラムを実施することで、子どもに対する暴力を減少させる上でのプラスの効果を生み出しています。

子ども時代が失われるということは、ある特定のグループの子どもたちを、意図的に、あるいは無視することで排除した結果です。子ども時代の経験は、大人から受ける、あるいは受けられなかったケアと保護によって大きく左右されます。子どもの権利条約は、子どもの生存、食と栄養、健康とシェルター（一時避難施設）の権利を認めています。子どもはまた、フォーマル（公教育）にでもインフォーマルにでも、教育を受ける権利を持っています。子どもは、恐怖や差別から解放され、暴力から守られ、虐待や搾取から保護される権利があります。そして、意見を聞かれ、自分たちに影響を与える決定に参加する権利があります。

2015年、世界の指導者たちが国連に集まり、2030年までにあらゆる形態の貧困を終わらせ、将来の世代のために地球を守るという大胆な約束をしました。貧困と環境の目標を融合し、確立された持続可能な開発目標（SDGs）は、すべての子どもたちが子ども時代の基礎となる、健康、教育、保護に関する権利を享受している未来を描いたものです。重要なのは、収入、地域、性別やアイデンティティにかかわらず、社会のあらゆる層においてSDGsが達成されることを、SDGsを採択した各国政府が約束したということです。同時

に、社会で最も排除されており、最も遠くに切り残されている人々に、最初に手を差し伸べることを約束したのです。

誰一人取り残さないというこの約束は、必ず守られなければなりません。それが守られて初めて、最後の1人の子どもまで子ども時代が保障され、世界中の何百万もの子どもたちの生活に変革をもたらさうる SDGs の可能性を実感することができるでしょう。